誰もが抱える悩みをパパッと解決！

福田貴一先生の福が来るアドバイス

子どもが前向きになる、目標の立て方

早稲田アカデミー
教育事業本部副本部長
福田　貴一

「目標の点数に届かないことが多く、最近はやる気を失っているようです。目標が高すぎるのでしょうか……」とご相談いただくことがあります。目標には、「今よりも高いレベルであること」と「実現可能なレベルであること」の両方が必要です。その〝さじ加減〟は、お子様の性格やタイプによっても変わってきます。今回は、お子様の成長を促す「具体的な目標」の立て方についてお伝えします。

という流れです。まずは、お子様の直近のテスト結果を「分析」してみてください。偏差値や総合得点だけでなく、「どの問題で失点しているのか」「どの失点を減らせば目標となる成績に到達できるか」を見ていただければと思います。そして、そのための手段を具体化していきます。このときに確認していただきたいのが、「正答率」との比較です。

進学塾で行われるテストでは、簡単な問題から難しい問題までが幅広く出題されます。小学校のテストは、その学年の生徒にとっては「できることが前提」となっていることが多いのですが、進学塾のテストではそのレベルを大きく超えた問題も出題されます。結果として、正答率が10パーセント未満の問題も出てくるのです。進学塾のテストの成績帳票には、多くの場合「正答率」の一覧が載っていますので、その全体正答率とお子様の結果を比較していただくのが「分析」の第一歩となります。そして、全体正答率が高い問題でお子様が失点している場合、「なぜ間違えてしまったのか」をお子様と一緒に振り返り、次のテストで失点しないための「行動（手段）」を考えてみてください。

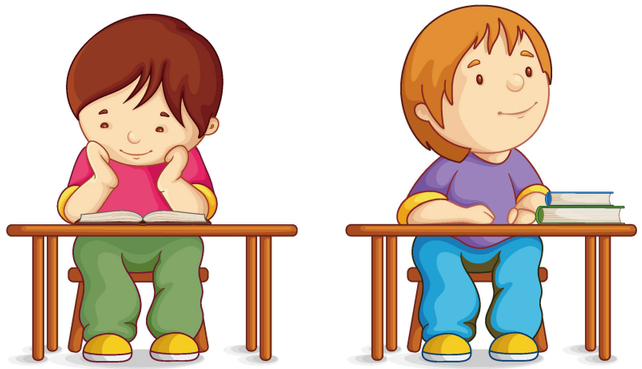
国語・算数の「正答率」

もう少し具体的に見ていきましょう。進学塾の国語・算数のテストでは、難度の低い問題が最初に出題されることが多いはずです。算数であれば「計算」や「小問（1行問題）」から始まって、後半になるにつれて「応用的な問題」「思考力が試される問題」が出題される、というようなイメージです。つまり、「正答率」が比較的高い問題から順に配置されているケースが多

「行動（手段）」を「具体的な目標」にする

小学生の学習面における目標は、偏差値や得点・順位などの「数値目標」だけでなく、より「具体的な目標」を設定するのがよいと思っています。「いつまでに、どのような結果を出す」というのが「数値目標」だとすれば、「その達成に向けて何をするか」という「行動（手段）」を考え、それを実践することを「具体的な目標」にするのです。

手段を考えるためには、「分析」が必要です。現在の状況を「分析」し、そこから目標までの道筋を考えるわけです。「クラスを上げる」という目標なら、次のテストで何点を取るべきか、そのためにどのレベルの問題まで解ける必要があるか、そして今、何に取り組むべきか……、



くなるのです。

「具体的な行動」を考える際には、まずは全体正答率が70パーセント以上の問題でお子様が失点しているものを確認するのが重要です。お子様は「計算ミスをしただけ、わかっているから大丈夫！」と思っている場合もありますが、「なぜそのミスをしてしまったのか」というところまで踏み込んで考えてみるのがよいでしょう。「計算の順序があいまいだった」「字が汚くて写し間違えた」などの原因が見つかれば、その改善が「具体的な目標」になります。

国語の場合、一般的には「漢字」「語句」などの知識問題の正答率が高くなります。こういった問題の「正答率」が低い生徒のなかには、「授業中の漢字テストはできているのに、まとまった範囲で出題されるテストでは間違えてしまう」というお子様もいらっしゃいます。小学3・4年生ごろまでは、「覚える」「定着させる」ということ自体に慣れていないことも多いものです。このような場合は、復習の方法などを見直して、「次のテストでは漢字は全問正解しよう！」という目標設定をしてあげてください。

「正答率分析」の注意点

「正答率分析」をするときに、少し注意していただきたい点があります。国語と算数の正答率を比較すると、算数には正答率が10パーセント未満の問題がある一方で、国語ではそこまで低い問題は少ないことに気付きます。この差には、算数と国語の「出題方式の違い」が関係しています。算数は「答えを書く」というのが基本的な解答スタイルですが、国語は「選択肢を選ぶ」という問題が多くなります。「正答率25パーセント」の問題を例に考えてみましょう。

算数の場合は、単純に「4人に1人が正しい答えを書いた」ということになります。一方、国語の選択問題の場合はそれほど単純ではありません。「正答率25パーセント」の問題は、実は「非常に難しい問題」といえます。「ア～エ」まで四つの選択肢があったとしましょう。「ア」が正解で「正答率25パーセント」という場合、残りの三つの選択肢が、どれも均等に選ばれているわけではありません。多くの生徒が、そのうちのどれか一つを選んでいることが多いのです。そういった視点も持って、「お子様がどのように間違えたか」を分析することが必要なのですが、ここから先は判断が難しい場面もあります。ご不安な点がございましたら、担当講師までお気軽にご相談ください。

お子様が前向きに学習に取り組むためには、自己肯定感を持つことが大切です。そしてそのためには、「成功体験」の積み重ねが欠かせません。「目標を決め、達成する」という「成功体験」を一つずつ積み重ねることで、お子様は大きく成長していくはずです。

ブログ　福田 貴一の 四つ葉cafe　公開中！

中学受験をお考えの小学3・4年生のお子様をお持ちの保護者様のためのブログです。
早稲田アカデミー 教育事業本部 副本部長　福田 貴一

著書に『中学受験　身につくチカラ・問われるチカラ』（新星出版社）。ブログでは、学習計画の立て方、やる気の引き出し方、テストの成績の見方、学校情報など、中学入試に関するさまざまなことについて書いています。

詳細はWebをご確認ください。
早稲田アカデミー　検索
左の二次元コードを読み込んでご確認ください
スマートフォンのみ対応